

# 会議記録

会議名	第2回 矢板市政策研究会議
日時	平成 25年 11月 19日 19時 ~ 20時 45分
場所	市役所 2階 特別会議室
参加者	市 遠藤市長、飯野副市長、横塚秘書政策班長、秘書政策班手塚副主幹 矢板市政策研究会議委員及びコーディネーター（別添名簿のとおり）

## 1. 開会（江面副会長）

開会及び資料の確認



## 2. あいさつ

### 【遠藤市長】

皆様こんばんは。本日は夜の会議でお疲れにも係わらず、全員ご出席いただき、大変ありがとうございます。今日は、副市長にとって初めての会議となりますので、よろしくお願ひいたします。

第1回目を昨年度末に開催してから、その後、「やいた市民会議」を3回開催しまして今の矢板市の現状について様々な問題課題が指摘されました。それらについて、これから報告をさせていただきます。

また、9月に竜巻、10月に台風があり、特にリンゴが甚大な被害を受け、その対応に追われているうちに、今年も11月になってしまいました。そして、先日、矢板中央高校が全国高校サッカー選手権大会県大会で優勝するという、明るいニュースがありました。矢板市としても応援していきたいと思っています。

本日の第2回目の会議で、テーマを絞っていくわけではありますが、この政策研究会議は矢板市が抱える政策課題や重要課題について調査研究し、ご提言いただく組織です。今、特に私どもが大変困っている問題の一つが「中心市街地問題」です。より具体的な提言をいただき、少しでも矢板市が活性化する起爆剤になればと思っています。今日の会議を有意義なものにしていただきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 【坪山会長】

こんばんは。第1回目の政策研究会議を3月に開催してから、その後、やいた市民会議が3回開催されましたが、その結果を見ると、色々な課題があり、市民が考えていることの本音の部分が出ているなど感じました。子育て、定住、産業、雇用など、広範囲な分野に渡り本当に色々な意見が出ています。これらの意見を含めて、これに対応すべく、この政策研究会議でテーマを決め、課題に取り組んでいくことを改めて実感しました。委員の皆さんの英知を結集し、ご意見をいただきながら進めていければと思っています。よろしくお願ひいたします。



<b>3. 会議事項</b>
<b>(1) やいた市民会議の結果報告</b>
資料1に基づき、事務局が説明。
《質疑・ご意見等》
(委員) やいた市民会議で出た意見をみると、数年前に総合計画を作った際に出た意見とあまり変わらない。「まちの活性化とは何だろう？」ということが、具体的に分からないと、意見の全ての項目をまとめ、皆さんが少しずつ満足できるように対応したとしても、まちは何年たっても変わらない。何も実現しない。もし、何かの形で活性化をしようとするなら、まずみんなで「矢板をどのように活性化するか？」を具体的に考えると、ころから始めるべき。人を増やす、動かす、集める、職場も増える等、様々な活性化があるが、まずは皆で話をつめて、イメージを共有してからでないと、本当に実のある政策は出来ないと思う。
(事務局) 市民会議については、各委員から言いつ放しで結構、どんなことでも、要は矢板市が元気になるような、活性化に繋がるようなものということでご意見をいただいた経緯がある。だから、多岐に渡る分野で様々な意見が出た。ここから、この政策研究会議で絞ってまとめていくことになる。
(委員) まず現状分析をどう考えるか。矢板市の良さはどんなところか、どんなところが上手くいってないのか、そこが共通理解されていないと思う。総花的と言うか、どの項目も全国共通の悩みである。全国同じレベルで考えていったら、人口減少時代にその地域の良さはなかなか出てこない。矢板市にしかない良さを焦点化して、まちづくりのステップを踏む。そうすれば、そんなに費用をかけなくても良い面が出てくる。
(委員) 今一番気になっているのは、若い世代のこと。コミュニケーションツールが変わってきていて、人の付き合い方も変わってきた。彼らの視点や感覚を取り入れて、子育て世代の前の世代（大学生や高校卒業して働いている年代）が楽しく毎日暮らしていけるようなまちにしてほしい。もっと若い人の考え（声）が出てくると良い。愛知県稲沢市は、全国で子育てのまちNo.3に入るらしい。何も無い田舎町だが、「2人目はここで育てたい」という思いで引越してくる若い人たちが多く、人口も増えている。若者が何に興味があり、関心があるか、そこも勉強したほうが良い。
(事務局) 市民会議の中には、20代の委員もいる。また、大学生の枠もあり、何人か声をかけたが参加には至らなかった。
<b>(2) 調査研究テーマの検討</b>
資料2に基づき、事務局が説明。
《質疑・ご意見等》
(委員) 矢板の中心市街は、昭和30年代から車での移動を想定しない商店街の作りである。車社会に対応できないまま、大店法の改正により大型スーパー（ライオンドーやと

<p>りせん等)が出来はじめた。多くの商工業者は、2次投資(駐車場の整備、店舗の改装等)をしていない。そして、今の現状がある。</p>
<p>商工会としても、空き店舗活用の研究はしているが、権利の問題等でなかなか上手くいかない。区画整理をして商業施設をつくるのが、手っ取り早いとは思いますが、今の商業者にはその余力がない。現状を踏まえ、形を変えるのではなく、今の状況で活性化できないかを考えている。</p>
<p>また、住んでいる人も、車の置き場がないなどの理由で若い年代が他の地域に出て行っている状況。残るのは高齢者ばかりで、高齢化が進むのは当然である。</p>
<p>(副市長) 中心市街地の空洞化は、全国的には共通課題。これは時代の波で、止めることはできない。人口が流出しているのは、住みにくい、仕事がない等様々な理由がある。この土地は、もともと地価が高く流動しづらい。結論としては、放っておけばよい、自然に過疎化していくから。その後、きれいにインフラ整備をし、コンパクトシティにしたら良い。しかし、それでも高齢者は住み慣れたところがいいので、外から移り住むことはない。そういう実情をみて、課題をやらないと面白くない。</p>
<p>(市長) 現状を踏まえた上で、これからどういう方向を見出していくかを検討すべきという意見には賛成。この地域は、いろんなロス要因がある。公団混乱地域なので、土地の流動はない。地籍調査か区画整理でもやらない限り動かない。しかし、そういう状況の中でも、放ったらかしにはできない。行政としての責任もある。空家空地が増える中、商店街の復活は難しいと思う。逆の発想で、住宅地という方向転換も考えていくべき。もともと駅に近く、非常に便利な地域である。可能かどうかは分からないが、考え方を変えていくことも必要である。</p>
<p>(コーディネーター) まず、中心市街地の活性化の将来像を皆で共有できているのか?どのような指標を立て、どういう状態が活性化なのか?現実にはできないことも多くあるかもしれないが、そのビジョンを描いた上で進めていくのが良い。</p>
<p>(委員) 子どもを一生懸命育てても、学校を卒業すると、ほとんど矢板に帰って来ない。それは、矢板市に仕事・職がないから、若者がいなくなるという現実がある。人が集まり、人口が増えるようなまちにしたいと思い、この会議の委員になった。時間をかけても決まるというものでもないので、早く実現性のある話ができるとう良い。</p>
<p>(委員) 幼い頃、矢板小学校にバスで通った思い出もあり、愛着のある土地である。このまちを見捨てるのは寂しい。権利関係をきちんとすれば、高級住宅地としては良いと思う。そういう開発も一つの案。駅周辺に、ある程度安価な住宅地が提供できれば、もともとその土地に住んでいた方の子ども等にとっては魅力ではないか。</p>
<p>(委員) これから矢板が何を目指していくのか?他はダメだけど、これだけはイイ!というものがあると良い。何でもいいのだが、他の市町にはない、価値・魅力を見出す。矢板のまちづくりの根本が煮詰まらないとダメ。そこが決まると、あとは自ずと決まる。</p>
<p>(委員) この地域の最大の強みは利便性が良いこと。しかし、人が歩いていない。</p>

<p>高校生は毎日600人ぐらい歩いているが、残念だがお金を落とさない。今の若者は、あまり車を好まず公共交通機関を使う。人を歩かせるような仕組みを作ってみてはどうか。対象を若者に絞り、「歩かせるまちづくり」を研究するのも面白いかも。</p>
<p>(コーディネーター) 今年は矢板武塾にて「蔵の再生」をテーマに活動している。先日、武記念館の南側周辺を塾生と歩いてみた。若者は歩くことに抵抗がない。ここをどう考えるか？現実的に、土地の問題は残るが、これからこの地域を担っていく若者が中心市街地をどう考えているか？どんなものに魅力を感じているか？等きちんとしたデータを集めていく。それには、市内在住の若者がここをどうとらえているかを知ることが大事。矢板のポテンシャルから考えると、新しい整備をすることはありえない。今ある状況の中で、いかに空家・空き店舗に新しい価値を付け、新しいストーリーを考えていくか。県内の鹿沼市や真岡市などの先行的な事例があるので、どうして上手くいったか等を調査し、矢板市としての可能性を分析してみると方向性が見えてくるだろう。中心市街地活性化は、全国的に失敗例が多い。いろんな要因があると思うが、少しずつハードルをクリアして、この魅力を創出していく。そのためには若者の意見は必須。</p>
<p>(事務局) 活性化の定義づけは、非常に難しい。今回は、中心市街が抱える商業、人口減少、空地・空家問題等いろいろあるが、今の時点では可能性として全て持っていて、絞らずに全て検討材料としたい。</p>
<p>(委員) 商工会の中でも様々な議論があり、取組みも行っている。その一つが軽トラ市。素人が軽トラごとに店舗を構え、いろんなものを売り、そこに人が集まった。また、新たに起業する人を育てる創業塾等も実施している。</p>
<p>(市長) 土地や意識の問題はあるが、実現可能なものを具体的に実践していくことが大切である。今回、「中心市街地」という対応困難な素材を課題として挙げたが、これが一つの起爆剤になって、この地区が生まれ変わるきっかけになれば良い。市が何もしないで、このまま放置することはあまりにも無責任。何らかの方策を打ち出していく必要がある。</p>
<p>(会長) 今回の調査研究テーマを「中心市街地の元気アップ」としてよろしいか。</p>
<p>⇒ 委員了承</p>
<p><b>(3) 今後のスケジュール</b></p>
<p>資料3に基づき、事務局が説明。</p>
<p>《質疑・ご意見等》</p>
<p>(委員) 中心市街地の成功事例について、場所や情報を提供していただきたい。</p>
<p>(事務局) 後日会議録と一緒に、リストにまとめ送付します。また、次回の会議までに、随時ご意見や情報等ございましたらご連絡をお願いします。</p>
<p><b>(4) 意見交換</b></p>

(5) その他
4. 閉 会

## 矢板市政策研究会議委員等名簿

### 委 員

NO	氏 名	役職・職業等
1	荒井 隆市	荒井プロパン代表取締役 (商工)
2	五味田 謙一	矢板中央高等学校校長 (教育)
3	笹沼 貞美	会社役員 (商工)
4	佐藤 喜久男	矢板市認定農業者会長 (農業)
5	鈴木 れい子	塩谷町非常勤教育職員 (教育)
6	坪山 和郎	とちぎ未来づくり財団副理事長 (行政)
7	松平 宣秀	寺山観音寺副住職・児童委員 (子育て)
8	江面 晃一	矢板市総合政策課長 (行政)

### コーディネーター

NO	氏名	役職・職業等
1	陣内 雄次	宇都宮大学教育学部 教授